

地デザ日誌

あつという間に卒業式!

やりたいことをかたちにして、あたらしい地域の支え合いのかたちを作る「地域デザインの学校」。in 西長住受講生の皆さんは8月から全6回の講座と補講を経て各チームで企画案を練り上げ、11月7日に卒業式を迎えました。当日は周辺校区の地域活動者や行政・学校関係者、事業者など、25名の方にお越しいただき、読売新聞にも掲載されました!



卒業式では、各チームの企画プレゼンと意見交流会を行います。チーム独自で作成したパワーポイントを使って発表する

姿は、緊張もありつつみなさん生き生きとした様子!プレゼンの後は、見学の方がチームのメンバーと直接質疑応答をする、意見交流会を行います。実際に地域で活動をしている方の叱咤激励や期待の声、地域に根差した活動にしているための的確なアドバイスなど、さまざまな意見をいただき、受講生のみなさんにとっても貴重な機会となったようです。

卒業生は既に、活動の実現に向けて積極的に動き出しており、ドネルモでは今後も各活動の実施と継続を目指して、西長住でのアフタフォローを続けていきます。

また、12月からは新しく中央区養子校区での講座が始まります!今後の地デザにも乞うご期待です!!

櫻井香那(ドネルモ/スタッフ)



冷泉荘 プロデュース スペースRデザインの レトロビルこばなし

ひとまち文化をつなぐ 辻ノ堂ラウンジ

師走。仕事に恋に大掃除にと、この時期は何かと忙しい日々が続きます。私にとってこの時期は、同窓会で久しぶりの友人に会いその変化に驚いたり昔の話で笑いあったりと、過去・今・未来に向き合う機会にもなっているような気がします。

さて、山笠発祥の地・承天寺横にたつレトロビル、駅前1丁目ビル。私たちはその3階で3つのコンパクトなオフィスと共有のラウンジからなるスタジオ・オフィス「辻ノ堂ラウンジ」を運営しています。

「アイデアと移動距離は比例する」という言葉を残したクリエイターもいるように、五感を刺激することで脳はより活発に動き、グッドなアイデアも浮かぶというもの。偶発的な人との出会いや会話などもその一つ。辻ノ堂ラウンジでは、個別の空間に加えて複数の人とシェアして使う空間をもつスタイルを提案。間取り、周辺環境も合わせて不思議と出かけたくなる、人と話したくなる、そんな雰囲気をもつ仕事場ができました。

辻ノ堂ラウンジ >> <http://www.space-r.net/tenant/ekimae1/3f>

梶原あき(株式会社スペースRデザイン/もちつき課)



トッススターの下の幸福

クリスマス。色んな思いが沢山ありますよね。人それぞれの沢山の思い出が詰まった12月ですね。街にはクリスマスツリーやイルミネーションがピカピカと輝いて、うっとりするけどなんだか焦る気持ちも。自分もこの光輝くような一粒であったか、この一年私は本当に頑張ってきたのか。そして何よりも、この日に愛する人と一緒にディナーが出来ていないとクリスマスの夜は完成しないんじゃないかと...(笑)

何故か、一人でいてはいけないんじゃないかと思ってしまうクリスマスだけ、静かな夜を過ごすことで何かを感じることももあります。家には鮮やかなクリスマスツリーはないけれど、優しく淡く輝くステラライトがあります。星の形をしたライトを手作りしています。そもそも、この星はクリスマスツリーのトッススターです。

別名「ベツレヘムの星」といいます。この星は、ひととき大きく輝く星が、東方にいた賢者をキリストが生まれた事を知らせ、ベツレヘムへ導いたといわれた星とされています。

星は暗闇において、輝きを増します。闇を抱える人間社会に、また、一人一人の心に、神の愛を伝え、互いに愛することを教えるイエス・キリストが来られた、しかも、物の豊かさや力、繁栄、力とは全く逆の、みすばらしい馬小屋でひっそりと生まれた、それがクリスマスの出来事です。「神を愛し、隣人を自分のように愛しなさい」という聖書の一節思い出しました。

ステラライト作成ワークショップ

日時:12月7日(月) 12:30~15:30
開催場所:B35号 美・Body サロン Napua
講師:Tomo Nokkonen(日本人です^^)
参加費:4,000円 定員:5名
*お申し込み:Laulea.yoga@gmail.com



日本ヘッドセラピーマスター協会認定セラピスト ナパ代表 高橋ひとよ



サンダーレンズ Thunder Lens*

いい夫婦の日(11/22)に冷泉公園で開催されたレインボープライド。セクシュアルマイノリティ(性的少数者)が、差別や偏見にさらされることなくより自分らしく前向きに生きていくことをアピールするための祭典。ここでもビジュアルがひと際目立つサンダーさん。ステキな笑顔と優しいオーラに包まれていた外人さんたちのご好意でステキなお写真撮らせていただきました。撮影:雨宮康子



酒民党员でもある、まちづくり屋さん聞く!

in 酒話

蕎麦でお酒を

師走です。秋はあんなに暖かったのに急に寒くなりました。寒くなると日本酒を飲む機会も増えてきますね。日本酒を飲む場所として思いつくのがお蕎麦屋さんです。蕎麦屋での飲み方といえば、板わさやだし巻き玉子などを肴に日本酒を飲み、しめに蕎麦をたぐるスタイルが定番です。池波正太郎先生の「鬼平犯科帳」や「剣客商売」では、蕎麦屋に入るとまずお酒というシーンが出てきます。善人も悪人もみな同じというのが笑

えますね。蕎麦屋でお酒という敷居が高いと思うかもしれませんが、蕎麦もお酒も身近な愛すべきものです。ちょっと勇気を出してのれんをくぐれば、楽しい世界が待っています。年越し蕎麦の前に、蕎麦屋酒デビューはどうでしょうか。

年越し蕎麦の風習は、江戸時代に定着しました。細く長いことから「健康長寿」「家運長命」を願った、細工師が飛び散った金粉を集める為に蕎麦を使ったことから金を集める縁起を担いだ等言われています。蕎麦は普通に食べても美味しいですが、家庭では鍋のしめにもお勧めです。

中国では「天寒、暖身、先暖心」と言って「寒いときは、心からあたためよう」という言葉があります。寒い師走ですが、心をポカポカにして、ステキな新年を迎えましょう。

カントク伊藤の 巨匠への道。 道の九

さて、今回で最終回。僕が福岡にたどり着いた経緯はなかなか複雑で。三重県桑名市の出身で、大学進学で東京へ(29歳まで、約11年間東京暮らし)。東京では映画学科のある大学へ通い、卒業後は映画・ドラマの助監督に。しかしこれがまあ、あまりに仕事のできない助監督で、叱られまくりで嫌になり現場を離れ。でも映画に諦めがつかず、なんとか映像業界に居たいとアダルトビデオ制作会社に拾ってもらい、そこでは毎日ロケーションを作ったり、大人のオモチャを洗ったり、出演者の方に Condom を渡したりのAD稼業。エロにストイックな事務所で仕事への姿勢など学ばせてもらい、社長とは今でも年賀状を交わさせていただけ。どうしてものめりこめず三ヶ月の研修期間で退社。中途半端にふらふらしている、ディレクターのお話を頂き、ケーブルTVのドラマ、会社紹介ビデオ、CSの番組などを制作するように。CSの旅番組で、2年3ヶ月で日本一周をし、その番組の福岡ロケで出会った方々との縁で、福岡に移り住んだのだ。

福岡でもさまざまな出会い・経験があり、この映画「まちや紳士録」は誕生した。2013年の福岡・KBCシネマを皮切りに、全国11の映画館で上映、地域上映は約70カ所を

数えている。この映画のプロデューサーいわく「上出来」とのことだが、僕はもっともっと多くの人に観ていただきたいと思っている。なぜならこの作品は、八女市福島地区の町並み保存に奮闘する人々、(僕と妻含め)町に惹かれて移住してくる人々の姿を通し、「人が生きていく」という普遍的なことについて描いたものだからだ。都会好きの福岡の人からは「どうせ八女の映画でしょ!」地方暮らしを表面的に捉えてる東京の人からは「田舎は時間の流れがゆるやかでいいですよ〜」などと言われ、ああ、伝えているって大変だな、と感じることもしばしばだが、もっと多くの人に観ていただきたいから書きます。「まちや紳士録」は人が生きていくことについて描いた愛の映画です。それではまた劇場でお会いしましょう!

伊藤有紀(映画監督/日本映画監督協会会員)
<http://officearigato.com/>



まちや紳士録 / 発売:株式会社グループ現代 販売:株式会社紀伊屋書店

